



あさかわ まちづくりニュース

長野市浅川地区住民自治協議会 まちづくり計画推進委員会

令和4年11月1日 第54号 委員長・宮下文夫 編集・北條昭吾

浅川小4年生が紙芝居「ゴマシジミ」鑑賞、ワレモコウ苗植え替え

10月5日(水)浅川小学校4年生55人は、霊園に生息するチョウ・ゴマシジミを描いた、紙芝居「がんばれゴマシジミ」の鑑賞をしました。

北部中学校美術班が描いた紙芝居『がんばれゴマシジミ』は浅川西条・紙芝居ボランティア「にこにこ一座」の知久荘治座長と白鳥日出子さんがゴマシジミの写真も使い上演しました。ゴマシジミは産卵して幼虫がクシケアリと出会い巣の中に運ばれ、アリの卵・幼虫を食べながら成長、翌年夏に飛び回るガクモなどに捕まったり、人間に密猟されるなどのお話に真剣に聞き入っていました。



がんばれゴマシジミの上演

紙芝居終了後、昨年10月8日4年生(現5年生)が植えたポット植え苗を霊園に移植する為土から取り出しました。苗は後日ゴマシジミ保護育成チームによって霊園に植えられます。

11月4日(金)全校児童が地域学習を行う「浅川チャレンジ」で4年生は長野市浅川霊園管理事務所徳永昭行さんから「ゴマシジミ」について現地学習をおこないます。

ハックルベリーの収穫・へた取り作業に2日間で46人が参加！

浅川産のハックルベリージャムを作ろうと「チームフロンティア・浅川(竹村美岐雄会長)」は春先から真光寺浅川の遊歩道沿いでハックルベリーを栽培してきました。10月1日(土)10月2日(日)延べ46人が参加して収穫作業・へた取り作業をしハックルベリー191.5kgを収穫しました。



ハックルベリーのへた取り作業

収穫したハックルベリーはテントを張った真光寺遊園地内に集め、会員は実からへたを取り除く手間のかかる作業を行いました。へたを取ったハックルベリーはジャム製造業者に持ち込まれ260gの瓶詰め600個余の「浅川産ハックルベリージャム」に製造されました。

今年は生育途中で青枯れ病で枯れる木もありました。昨年は数カ所で勢いつけて栽培、600kgを収穫、今年は栽培量を減らしました。ラベルを貼り「浅川産ハックルベリージャム(260g)」は500円で浅川地区住自協事務局で販売予約を受け付けています。

浅川小学校教職員が「ゴマシジミの保護活動」で教育懇談会開催



徳永さんの講演

9月20日(水)浅川小学校(水沢博昭校長)の教職員15人は、長野市霊園に生息する絶滅危惧種のチョウ・ゴマシジミ保護活動について学ぼうと長野市霊園管理事務所徳永昭行さんを講師に教育懇談会を開催しました。



講演を聞く教職員

ゴマシジミの保護活動に取り組んでいる徳永さんから、ゴマシジミは近い将来野生での絶滅がきわめて高い、今では松本奈川と長野市浅川霊園だけに生息する貴重なチョウですと紹介されました。

ゴマシジミの生態は 7 月末に現れすぐ交尾し卵はワレモコウの花の中に産み付けそれを食べ、幼虫は花の真ん中で育ち、3 ミリくらいの幼虫はクシケアリの巣に入り、アリの幼虫などを食べ蜜を出して共生し大きく成長、夏が近づくとアリの巣から出てサナギになり 7 月末頃から成虫で舞い始める。



花にとまるゴマシジミ

ゴマシジミはアリと共生しているが霊園では見つかっていない。「ゴマシジミとクシケアリの不思議な関係」「ゴマシジミの減った理由」「なぜ浅川霊園にチョウは残ったのか」など疑問が多い。

浅川小学校 4 年生は、毎年絶滅危惧種のゴマシジミの食草ワレモコウの苗の育苗、浅川チャレンジでは霊園の現地学習、紙芝居「がんばれゴマシジミ」の鑑賞など地域の人たちと共に学ぶ保護

学習活動は大きな力になっている。

春先の草刈りでワレモコウの生育する環境確保、苗植え付け、パトロール活動など「これからのようにチョウを守り育てるか」のほか、ゴマシジミ密猟者対策として生息地公開、看板設置、警察・住自協のパトロール実施、監視カメラ設置など行っている。

7 年前 1 日当りゴマシジミの確認数が 7 匹でしたが、今年は 37 匹とゴマシジミは増えてきている現状も報告されました。

教職員からは、今後の密猟者対策について、地域の資産として長く取り組む事への質問や意見が出されました。

「ダムカメラを高感度カメラに検討」浅川ダム利活用懇で県表明



浅川ダム利活用懇談会

浅川ダム等の利活用を関係者で話し合う「第 27 回 浅川ダム等利活用懇談会」が 9 月 14 日(水)開催されました。7 月 23 日に行われた「浅川ダム祭り」「チームフロンティア・浅川」「浅川ダム花いっぱい」の活動報告、今後の活動などについて意見交換をしました。

懇談会には長野県浅川改良事務所から川住淳一郎所長ほか 2 名、市浅川支所柄澤貞久支所長、浅川地区住自協から金井明靖会長ほか 11 名が出席しました。



演奏を聴く観客

県浅川改良事務所から浅川ダム祭りについて「幅広い年齢層で満足されていた」「スティールパン演奏は本格的で地元の方も一緒に盛り上がった」「いろいろなアイデアを出しながら情報共有を図って盛りあげたらどうか」「ダムが一望できるホットスポット設

け記念写真できるように」など意見がだされました。



スティールパンの演奏

住自協からは「ダム祭りでは、11 人から農産物の出品があり夏の農産物祭りは売上も伸びた」「アトラクションでのスティールパン演奏は観客の飛び入りの歌、手拍子や歓声で盛り上がった」などを報告。

「チームフロンティア・浅川」は河川敷や遊歩道、道路土手の草刈り、ハックルベリー栽培など、9 月まで延べ 411 人の参加があり、10 月以降の活動内容も発表しました。

「浅川花いっぱいの会」は一之瀬橋西斜面での菊栽培地草刈り・菊植え付け・ひまわり・水仙・タチアオイ・菖蒲の植栽活動を紹介しました。

県から佐久の余地ダム内で日本酒醸成貯蔵の例があるが、浅川ダム内を利用したワインの醸成貯蔵など利用提案がありました。

参加者との意見交換で県は「浅川ダムのダムカメラは夜間でも水位が見えるよう高感度カメラに交換するよう検討している」との事です。